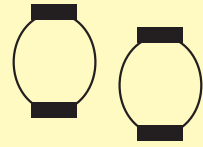


ジャハナラ・スフィ夫妻来日 [8月26日~9月5日]



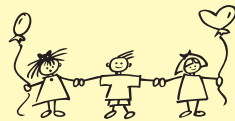
現地アドバイザー、ジャハナラ ベゴム夫人(現在バングラデシュ政府婦人児童省副書記官)、モハマッド アーメド スフィ氏(ファーニテック インダストリーズ株式会社専務取締役)ご夫妻が来日され、当基金の事務所にも数日間滞在されました。夫妻の案内のため英語の堪能なスミコ・プライス様にも同行して頂きました。岡山、広島、京都で、会員協力者の大槻順一郎様、今田廣介様、志水均様が意見交換や案内をしてくださいました。

当会現地法人のNGO登録の際、当時のNGO局登録担当であったジャハナラ夫人にはバングラデシュの状況に無知であった私共にも大変親切に指導・登録して頂きました。それ以来他の省庁へ転動後も何事にも親身になって相談に乗ってくださり、私共がこうして無事20周年を迎えられたのも夫人のご援助の賜物と言っても過言ではありません。またご主人にもグループで開設されたリゾート施設へ子供たちを招待したり、種々の問題で協力していただき大変お世話になっております。



卒園生の運送業開業

前号でご紹介した卒園生グループによる運送業が開業致しました。種々検討のうえ新車(インド、タタ社製小型トラック)を購入し予算以上の110万円かかりましたが、前号でのお願いに応じて何名もの方のご寄付を得、会長の寄付と合わせて購入することができました。ご協力誠に有難うございました。ホームが面する国道が4車線に拡幅する大工事中で、車の出し入れができなことが多くまだ本格的な稼働とは言えませんが、既に10件近くの注文をこなす次第に事業らしくなっております。



卒園生互助会がスタート



卒園生も増え、中には入院費など臨時の出費に困るものも出てくる様子を、会長の提案で卒園生互助会を組織致しました。先ずは近隣に住む者たちでミーティングを持ち、賛同するものだけ数名でスタートしました。次第に他の卒園生に働きかけ組織を広げてゆく予定です。

月々50タカ(約63円)の会費を徴収し、臨時資金の必要な者に貸付けます。利息は有りません。月々の返済額と返済開始月は3名の役員の合意で決定する。返済が焦げ付いた場合は会員全員が負担するという制度です。当初の貸付資金は会長の寄付とし、卒園生ラバアが夫の入院費のため最初の借入れをしました。



事務局より

直接支援児へのプレゼント等の送付は、他の子供たちとの差別感や現地の習慣の違いで相応しくないことが有り、原則としてご遠慮させて頂いております。そのような点を考慮のうえ、お送り頂く場合は事務局宛て送付ください。次の訪バの際持参致します。直接お送り頂いてもバングラデシュは郵便事情が悪く、これまで一度も届いたことが有りません。現地から日本へ発送する手紙類は無事着いているようです。

SAKURA FAMILY NEWS 2014年10月発行 通巻36号

特定非営利活動法人 日本バングラデシュ協力基金

事務局：業務/月~金、10時~16時
住所：〒286-0114 千葉県成田市本城83-40
TEL：0476-33-4839 FAX：0476-33-4859
E-mail: sakura-jbcf@kss.biglobe.ne.jp
URL：http://www.sakura-family-home.org

郵便振替口座：名義/特定非営利活動法人 日本バングラデシュ協力基金
口座番号/00170-6-766054
会費：正会員/月額500円
賛助会員/1口月額500円
フォスターファミリー会員/1口月額1,000円

SAKURA FAMILY HOME: SOUTH SALNA, SALNA BAZAR, JOYDEBPUR, GAZIPUR, BANGLADESH Phone: 880-1714133035

SAKURA FAMILY NEWS



特定非営利活動法人 日本バングラデシュ協力基金



お陰様でサクラファミリーホームが
“創立20周年”を迎えました。
お世話になって参りました関係各位、
会員、ご協力者の皆様に心よりお礼申し上げます。
※本文記事②ページ



入学

ジョリル アーサン ジョニー

ジョニーは1月17日に小学校保育課程に入学しました。これは1年生になるには心身未発育の児童が受け入れられる学年です。



ジョニーは発育不良が問題で、7才になりますがまるで4歳児のようにみえます。医師にかかったり食事を研究したり努力しましたが改善せず、はっきりした解決法が見当たりません。か細い体格と共に精神的にもひ弱で一寸したことにはすぐドキドキします。このた

め他の子供たちと交流すべき就学は無理との危惧から入学を見合わせてきましたが、そのような児童のため近年創設された保育課程に入学することに致しました。

モハマッド ラビ ビッシュアス

ラビはホーム入園前に1年間通学しており、入園テストの結果十分その能力を維持しておりましたので、ホームからは1月17日小学2年生に入学致しました。



ヌスラット ジャハン ヌブル

(ヌスラットは以前呼び名をヌブルとしてご紹介致しましたが、子供達の間で自然に別名ヌスラットを使うようになりましたので、事務的にも今後はヌスラットを呼び名として使用致します。)



ヌスラットは以前4年生に進級した後入園致しましたが、生活環境により3年生の勉学は十分できていなかったため、ホームで再度3年生から入学することに致しました。

進学

ムクル カジ バブ

バブは2014年3月31日に一旦卒園しましたが、4月1日より引き続きホームに滞在し、パートタイマーとして後輩たちの学習の指導をしつつ自身も進学を目指すことにしました。4月9日ウットラ大学に入学し、将来英語の先生になるべく、英語科を専攻して頑張っております。



12月6日に外部で自立して生活すべく離園し、ホームの隣に住んでおります。

卒園就職

モハマッド ロビン アーメド

ロビンは8年生を終了しましたが、勉学より早く社会に出たいとの思いから、2014年4月17日自信のある体力を生かした就職先として警備保障会社に就職致しました。会社の寮に入り張り切って仕事をしております。



就職決定、即就業と言うことになり慌ただしく卒園してしまいましたので、8月12日休暇でホームに帰った折に送別会を催しました。

卒園生ベビーの結婚

2014年4月17日卒園生ベビーの結婚式が彼女の実姉で同じく卒園生のルビーの嫁ぎ先(農村)で行われました。ホームから会長とマネージャーが出席しましたのでその時の様子をお伝えします。



出席者に食事が振舞われ待つ内に、新郎が親族と共に習慣通り2時間位遅れて到着、事務的な手続き後、新婦ベビーの控室のある家の庭で他の出席者たちと共に待ちます。控室では新婦側の女性たちだけで新婦の化粧や花嫁衣装の着付けをし、その後も男性を入れずに歌を歌ったり楽しそうにはしゃいでなかなか出てきません。新郎

は情けない顔をして辛抱強く待ちます。その内新郎側の一人の男性が飛び込んで中の女性たちに色のついた液体を振りかけました。

やっと新郎が中へ入れてもらい、新婦にミスティ(ベンガルの甘い物)を食べさせます。新婦も新郎に食べさせ、さらに周りの家族も食べさせます。その後新婦側の人達から嫁を大事にするよう良く言い含めて新婦を手渡します。

やがて新郎が新婦の手を引いて出て来て、準備した車(ホームのハイエース)に乗り込み、家族数名が同乗して新郎の実家へ向かいました。以下は次号で

サクラファミリーホーム創立20周年記念式典を開催致しました

佐渡島志郎日本大使メッセージ



私は、20周年記念日に際し、中川氏、サクラファミリーホームのスタッフの方、そしてそのような素晴らしい先駆的活動に支援しておられるバングラデシュと日本の支援者の皆さんに、心からの敬意を表したいと思います。ここサクラファミリーホームのすべての子供たちと養母の方たちにも深く敬意を表します。

私は中川氏の40年以上に亘るバングラデシュの貧困の低減に対する偉大な貢献を高く評価しております。1972年以来、彼の慈善活動は強い情熱、努力そして献身により続けられてきました。1994年にスタートしたサクラファミリーホームはこの賞賛すべき貢献の中の一つであります。今一度、私は中川氏や過去20年間にこの素晴らしいホームにかかわった全ての方々に心からの感謝と高い敬意を示したいと思います。

日本政府はバングラデシュの1971年の独立以来、その経済発展努力に対し絶えず支援してまいりました。日本の政府開発

援助(ODA)はこの国の発展のために、橋、道路、病院、発電所、肥料工場、サイクロン避難所など様々な面で協力しています。私は、バングラデシュの発展のために政府を通じてやってきたこのような日本の支援について誇りを持っています。

他方、日本政府はそれが直接人々、特に草の根レベルの人々に向けられることを願い、その地のNGOの資金援助を通じて末端の受益者に行きわたるよう協力してまいりました。日本政府よりの助成金により、多くのNGOが地域に即した学校や診療所を国中に建設してきました。

この事業例を得て、恵まれない子供たちのための素晴らしい福祉施設であり、かつ日本政府が助成したサクラファミリーホームの創立20周年記念日を迎えたことを知り、私は大変嬉しく誇りに思います。

サクラファミリーホームの次の30周年を期待し、ホームの子供たちみんなが将来幸福で満ち足りた人生を送り、ここで学んだことを基に国家建設に貢献するよう心から願っています。サクラファミリーホームの今後の成功を祈り私の話を終ります。

有難うございました。

沼畑光毅日本大使館参事官のご挨拶

紳士淑女の皆さん、アッサラームアライクム アンド グッドモーニング。雨は祝福の象徴です。どうぞこの雨をお楽しみください。皆さん、私は在バングラデシュ日本大使館を代表し、サクラファミリーホームの創立20周年記念日に際し、私たちの心からの敬意を表したいと思います。本日私共の佐渡島志郎大使が皆様にメッセージをお送りしておりますので、今それを読み上げます。

ます。(ベンガル語で)私たちの小さな紳士淑女の皆さん、私が初めてバングラデシュへ来た時と比べこの国は驚くほど速く発展してきました。更に発展を続け日本、アメリカ、ヨーロッパのような国になるでしょう。そんな仕事をするのは誰でしょう? 君たちです。こんなに多くの方がみんなを応援してくれています。このことを胸にしっかり勉強して国の発展に尽くす人になって下さい。

中川恵資理事長挨拶(要約)

皆さんお早うございます。本日貴重なお時間を割いてご出席下さり誠に有難うございます。この機会に、温かく支援して下さいました日本政府、特に日本大使を初め大使館の方々、バングラデシュ政府、サクラファミリーホームの子供たちを自分の家族のように支えて下さっている学校の先生、医師、ホームのマネージャー、養母他のスタッフの皆さん、バングラデシュ・日本・米国の支援者の方々に心からお礼申し上げ

実際の創立記念日は7月23日ですが、その日はイスラムの断食の最中で祝賀会の会食ができないため、8月13日に記念式典を催しました。本年は節目の創立20周年に当たり、ホームの敷地にテント式特設会場を設け盛大に開催致しました。

式典は司会を年長児フィロズとシハブが2人で担当し、ジョーイのコーランの斉唱で始まりました。

会長の挨拶に続き、主賓には佐渡島志郎日本大使がご出席の予定でし



たが、公務のため沼畑光毅参事官が代理でご挨拶と大使の祝辞の代読をして下さいました。

当日は式典開始直前から猛烈な土砂降りとなり、テント式会場最前列の来賓席に大量の雨漏りが出て混乱致しましたが、急きよ席の配置を変更し無事挙行することができました。

来賓臨席者には日本大使館、バングラデシュ政府、関係会社団体、病院、通学校、支援者、近隣などのお世話になっている方々や卒園生、元職員など約200人の出席を得ました。

式典後、子供たちの歌、ダンスや詩の朗読などを披露しましたが、子供たちの素晴らしいタレントぶりに多くの方から感激の言葉を頂きました。

閉会后、来賓の方々には本館のロビーにて会食して頂き、楽しく会談・意見の交換を行い、大雨の中ながら、大変有意義な式典となりました。

ホームの出来事 (2014年4月1日~10月31日)

- 4月1日 中川会長来訪滞在 卒園生バブをホームのパートタイムティーチャーとして採用
- 4日 ショナリ体がつかうため病院受診
- 8日 又スラット小学3年生に入学
- 9日 卒園生バブ、ウットラ大学へ入学
- 14日 ベンガル歴元日(ボヘラボイシャーク)の祝いと同窓会
- 7月1日 モハマッド マハブブ アロム ジョムナ銀行チョウラスタ支店長来訪
- 3日 インド、タタ社製小型トラックを購入
- 4日 ロクサナが喉の病気で声が出なくなり病院で治療を受ける
- 11日 卒園生モリヨム心身過労のため6日間入院
- 12日 卒園生ファルザナ腹痛と吐き気のため病院で受診
- 16日 ジャハナラ・ベゴム、スフィ夫妻来訪、食料品を寄贈
- 22日 会長、マネージャー日本大使館訪問、佐渡島大使、沼畑参事官、小松二等書記官、齋木医務官に面会
- 29日 ロジャル イード(断食明けの祝賀祭)の祝い



イリッシュと言う魚のフライと水漬けご飯を食べて祝いました。この日は同窓会でもあり、卒園生たち(子連れ参加も)がお土産を持って集まり在園児と共に一日楽しく過ごしました。

- 17日 卒園生ベビー結婚 ロビン卒園し警備保障会社に就職
- 27日 カコンおばさん(カラ)両足の甲、脛のむくみで病院受診
- 29日 会長日本へ帰国
- 5月4日 又スラットが喘息のため治療を受ける 寿賀政幸日本大使館参事官と箱中櫃子様来訪
- 10日 卒園生の互助会を設立
- 11日 母の日の感謝祭 この日は調理など家事一切を子供たちで行い、母たちに一日ゆっくり休んでもらいます。花束を贈呈、歌や踊りで日頃の労をねぎらいました。



- 18日 中川浩人副会長来訪スポーツ用具を寄贈
- 22日 日本大使館の多賀政幸参事官童話本を寄贈
- 6月1日 ジョニーが発育不良のため病院で受診、特に異常は見当たらず
- 20日 中川会長ホーム来訪



広場の特設礼拝所で村中の男性と一緒に祈る。今日から3日間は休日でお互いの家へ招待し合う。園内の家庭でも同様に卒園生も帰って来て楽しく過ごす

- 31日 米国ジョージア州在住支援者スミコ・プライス様来訪
- 8月12日 卒園生ロビンの送別会
- 13日 サクラファミリーホーム創立20周年記念式典および祝賀会を催す
- 14日 ユー アンド ミー国際学校スタッフ一行来訪
- 19日 シアム 扁桃腺炎の手術のため入院 園内パソコンクラス開設
- 20日 会長、スミコ・プライス様帰国
- 25日 園内簿記講座開設
- 10月3日 卒園生モリヨム、イード休暇中里帰りとして来園
- 4日 会長来訪
- 6日 コロバニイードの祝い



男たちは村の特設礼拝場へ祈りに行き、帰園後昨日購入した牛をイスラム僧の祈りと共に屠殺。用務員、年長男子等で肉の処理を行う。80kgの肉が取れる。卒園生ジョリファ、イード休暇に里帰りとして来園